

## 社外取締役 取締役会議長からのメッセージ

社外取締役  
取締役会議長  
飯島 彰己



このたび、第146回定時株主総会後の取締役会の決議を経て、取締役会議長を拝命しました。前任の坂根正弘氏は取締役会の活性化に取り組み、クリストフ・ウェバー代表取締役社長 CEOとともに、タケダのグローバル化とそれを支えるガバナンス体制の強化を推し進めてきました。

その後任として取締役会を率いる重責に身の引き締まる思いです。これまで三井物産という総合社長の経営に携わり、経済界と緊密な関係を築いてきた経験を生かし、タケダのさらなる成長と発展に貢献していく所存です。

### 存在意義とタケダイズムに導かれる未来へ

グローバル企業が身を置くビジネス環境は厳しさを増しています。コロナ禍では、医療インフラの脆弱性や医薬品の安定供給など、医療や製薬企業の在り方が問われました。さらに、地球温暖化による気候変動をはじめとする環境問題も一段と危機的様相を呈しています。また、ロシアのウクライナ侵攻を契機として地政学的な関係が一夜にして変化し、各国間の緊張の高まりとともに、国際情勢の先行きも混迷を深めています。

大正時代、日本近代資本主義の父とされる渋沢栄一氏は著書『論語と算盤』で企業活動と持続可能な社会の実現（サステナビリティ）は不可分であることを説きました。タケダにとってサステナビリティの指針となるのは「世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」という存在意義（パーパス）です。私は、この存在意義は患者さん、つまり人を中心に据え、グローバルに事業を展開するタケダらしさに溢れた内容だと感じています。不確実性の高い事業環境下においても、この存在意義を指針として、誠実を起点とするタケダイズムを軸に据えることで、進むべき未来への歩みを着実に進めることができるのです。

### 透明性、高い統治能力を備えた取締役会として

企業活動は常にリスクと機会が表裏一体です。取締役会とタケダ エグゼクティブ チーム（TET）が成長の機会を先見し、リスクを取って取り組まなければいけません。タケダの取締役会は、取締役15名のうち過半の11名が独立社外取締役です。私は複数の企業で社外取締役を務めていますが、前任の坂根氏とウェバー社長が築いてきた取締役会は透明性および統治能力が高く、高水準のガバナンスを構築していると評価しています。

取締役会には監視（モニター）の役割に加えて、助言（アドバイス）と監督（ディレクト）の役割が求められます。「すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために」を実現し、タケダの目指す姿を見定めながら長期的な価値創造に向けて力を発揮することが取締役会の使命です。経営計画の策定、リスク管理からESG（環境・社会・ガバナンス）への対応に至るまで多岐にわたる責務を果たします。合わせて、企業の成長の要となる次世代リーダー育成の役割を担うことについても、格別な強い思いとともに臨みます。後進の育成に尽力してきた私自身の経験を振り返りますと、どんなに先端技術が進化しようとも、基本は人が仕事をするのです。タケダの変革を推し進め、新たな未来を担う人材育成は、大変重要だと受け止めています。

取締役会議長という大任を拝し、使命感を持って取締役会の運営にあたり、株主価値と企業価値の向上に精励して参ります。

飯島 彰己

社外取締役  
取締役会議長  
飯島 彰己